



地域とともにある

勢いのある学校

No. 27 (R3. 12. 1発行) 文責 校長 福田雅也

言霊(ことだま)

「言霊」…「ことだま」と読み、言葉が目に見えない力を持っていることを意味します。発した言葉が何らかの形で現実に影響を与え、良い方向へも悪い方向へも導くという考え方のことです。古来より日本では、言葉には霊力が宿っていると信じられ、このように考えられてきたそうです。身近なことで言えば、「痛い痛い、お山の向こうへ飛んでいけ」というような「おまじない」の言葉も、「言霊」への信仰から生まれたものだそうです。

炊きあがったごはんを二つの茶碗にとり、一つには「おいしくいただくよ。ありがとう」と声をかけ続け、もう一つには「まずそうだな。早く悪くなってしまう」と声をかけ続けていると、「ありがとう」と声をかけたごはんの方が、長く腐らずにいるという実験結果もあるそうです。

最近還暦を迎え、これまでの自分の人生を振り返った時、この「言霊」という言葉が頭に浮かんでくる事柄がいくつかあります。決して霊的な話ではなく、テレビドラマに影響を受けて書いているのではありません。私の場合、自分の至らなさもあり、浮かんでくるのはマイナス面の事柄です。さすがに具体的な事柄は書けませんが、ネガティブな考え方をもち、しかもそれを言葉にして口に出してしまった時、後々自分にマイナスの出来事として返ってきてしまった。そのような事柄がいくつか思い浮かぶのです。

このことは、もしかすると「言霊」とは少し違うのかもしれませんが、単に、発した言葉が周りの様々な方々に伝わり、それが悪い結果として自分に帰ってきただけかもしれません。しかし、人は優しい言葉を聞けば気持ちが穏やかになり、非難や悪口を聞けば、たとえ自分に関係がなかったとしても、嫌な気持ちになることがあるでしょう。言葉は良くも悪くも、人間の心理に影響を与えるのだと思います。

普段の生活で考えると、「ありがとう」や「だいすき」などの言葉には「プラスのエネルギー」が、「ウザイ」とか「キライ」という言葉には「マイナスのエネルギー」が宿っていると考えることもできます。そして、その言葉は相手だけでなく、その言葉を発した自分にもプラスやマイナスのエネルギーとして伝わってしまうのかもしれません。他人に感謝をしたり、褒めたりする言葉は、相手を喜ばせたり、嬉しい気持ちにさせたりするだけでなく、自分にも効き目がある、と考えることができそうです。

ですから、自分が発した言葉は、自分に返ってくるのかもしれません。

これまでの自分の人生を反省しつつ、残り少ない教師としての時間、子どもたちをたくさん言葉で褒め、周りの方々への感謝の言葉を口に出して伝え、少しでもいいので、周りも自分も、豊かで楽しく明るい気持ちで過ごせればと思っています。

郡版画展の入選者の紹介

がんばりましたね おめでとうございます

学年	氏名(敬称略)	学年	氏名(敬称略)
2年生	磯道ゆづき 野田ちあき	4年生	濱そうすけ
〃	本田ももか	6年生	小杉さき
3年生	那須わかな 吉村みゆ		